

令和6年度 事業実績報告（案）

1 会議の開催

開催日	会議名	協議事項等
令和6年 5月17日	第1回 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業実績報告（案）及び決算（案）について ・令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について ・地域公共交通確保維持事業に係る瑞浪市公共交通計画の別紙（案）について ・瑞浪市地域公共交通計画の記載変更について ・陶町新地域公共交通ネットワークの導入について
令和6年 5月17日	第1回 幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・陶町新地域公共交通ネットワークの導入について
令和6年 7月22日 (書面開催)	第1回 運賃料金 部会	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市観光協会が運行する観光デマンド交通の運賃について
令和6年 7月22日 (書面開催)	第2回 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市観光協会が運行する観光デマンド交通の運行内容（運賃以外）について
令和6年 9月10日	第2回 幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・陶町新地域公共交通ネットワークの導入について
令和6年 9月10日	第3回 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市観光協会が運行する観光デマンド交通について ・陶町新地域公共交通ネットワークの導入について（幹事会より報告） ・稲津町地区のA I オンデマンド交通導入検討事業開始について
令和7年 1月29日	第4回 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市コミュニティバス運行内容変更（案）について ・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について ・瑞浪市コミュニティバス車両の移動円滑化基準適用除外について
令和7年 3月25日 (書面開催)	第5回 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・瑞浪市地域公共交通運行業務（コミュニティバス・北部デマンド交通、陶デマンド交通）プロポーザル審査結果について

2 地域公共交通計画の認定申請

瑞浪市地域公共交通計画の認定申請を行った。

事業計画である別紙においては、利用者の増加を図るため、例年行っている時刻表の全戸配布、制度説明会の積極的な開催や観光利用制度の促進に加え、デマンド交通の新規登録者の開拓と利用促進に向け、乗り方教室を開催することを記載した。

3 運行内容等の変更

(1) 停留所の名称変更

既存の停留所の名称を次のとおり改めた。

対象路線	対象バス停名称(変更前)	対象バス停名称(変更後)
瑞浪中央線	JA 上野町支店前	旧 JA 上野町支店前

変更理由：JA 上野町支店が令和7年3月17日に移転するため。

(2) 運行時間の一部変更

一部路線において、JRとの乗り継ぎに配慮し、運行時間を変更する。

路線名	修正内容
萩原線	運行開始時刻を8:45から8:40に変更

4 地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー計画事業）の事業評価

地域内フィーダー計画事業については、毎年、地域公共交通協議会において事業評価を行う必要があり、計画の進捗状況について評価を行った。デマンド交通の利用促進に取り組むため、デマンド交通登録者へのアンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努めた。また、区長会に出向いてデマンド交通の現状及び制度説明を実施し、地元住民への利用を促した。加えて、デマンド交通の出張乗り方教室を計画し、2つの会より申込みがあった。参加者には無料券を配布し、利用促進に努めた。その他、市内を運行する東鉄バス明智線の路線維持のため、恵那市とともに補助金を交付した。

5 陶町新地域公共交通ネットワークの導入検討

瑞浪市地域公共交通計画の基本方針に基づき、コミュニティバス陶線をデマンド交通へ転換すると共に、東鉄バス明智線の市内上限運賃制度の導入を行うことで、陶町内から瑞浪市内への移動需要に応えると共に路線バスの存続に繋げるため、陶町新地域公共交通ネットワークの導入について協議した。その結果、令和7年10月よりコミュニティバス陶線をデマンド交通へ転換することとなった。東鉄バス明智線の市内上限運賃制度の導入については、協議が調わなかったため、継続審議事項となった。

6 稲津地区及び上山田地区におけるAIオンデマンド交通導入検討

瑞浪市地域公共交通計画の基本方針に基づき、コミュニティバス萩原線の利用が減少しており、交通空白地区も存在するため、東鉄バス明智線との役割分担に配慮し、AIオンデマンド交通の導入について、検討調査を行った。市民アンケート調査や事業者ヒアリングの結果、稲津地区では、萩原線の利用者数は少なく、改善要望も少なかった。上山田地区では、そもそも地区内の公共交通需要が少なく、両地区においてAIオンデマンド交通を導入したとしても、その効果は見込めないと考えられる。

本市でAIオンデマンド交通を導入するとすれば、AIによる運行ルートを最適化できる瑞浪中央線と山田線の沿線が考えられるが、既存の交通事業者との関係を考慮し、時間帯や運行エリアなど、事業者との調整が必須である。

稲津地区については、地区内移動用として時刻表の見直しを行う。上山田地区については、公共交通需要は少ないことから、地域住民主体の対応に対して可能な範囲で支援を行う。